

富山県におけるハクバサンショウウオの新産地

草間 啓¹⁾・澤田 研太²⁾・稻村 修¹⁾

魚津水族館¹⁾・立山カルデラ砂防博物館²⁾

A new production area of Hakuba salamander *Hynobius hidamontanus*
in Toyama prefecture

Satoshi KUSAMA¹⁾ Kenta SAWADA²⁾ Osamu INAMURA¹⁾

Uozu Aquarium¹⁾ Tateyama Caldera Sabo Museum²⁾

はじめに

ハクバサンショウウオ *Hynobius hidamontanus* は、1975年に長野県白馬村で発見され、1987年に新種として発表された日本固有種の有尾類である (Matsui, 1987)。その後、ヤマサンショウウオ *Hynobius tenuis* とされていた個体群が、遺伝子研究によりハクバサンショウウオのシノニムとされた (Matsui et al., 2002)。

本種は環境省のレッドリスト 2017 で、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種として「絶滅危惧 IB 類 (EN)」に指定されている。また、富山県のレッドデータブック 2012 では、絶滅の危機に瀕している種として「絶滅危惧 I 類」に指定され、さらに 2015 年 5 月 29 日には、富山県内の希少野生動植物のうち、特に保護を図ることが必要な「指定希少野生動植物」に指定された。

本種の分布域は、長野県、岐阜県、富山県、新潟県の一部とされる (関・松井, 2016)。富山県内ではこれまでに、立山町、上市町、旧大山町、旧利賀村、富山市有峰から記録されているが (南部, 2001)，今回、新たに富山県魚津市でハクバサンショウウオを確認したので、新産地として報告する。

なお、本種の保護上の観点から、新産地の地名や情報提供者等の詳細は控える。

結果

1) 確認場所

今回確認された場所は、魚津市の平野部に近い丘陵地の標高約 170m にある雑木林内で、小規模な畑へ水を引く素掘りの用水路である。用水路の規模は、長さ約 140m、幅約 20cm、水深約 5cm であり、確認時の水温は 9.0~10.5°C と場所により若干のばらつきがあった。

畑の管理者によると、この場所は 1987 年頃に開墾され、当時は排水溝が整備されていたが、1997 年頃に大きな土砂崩れで排水溝が埋もれたため、新たに用水路を素掘りし、定期的に江浚いを行って現在まで維持してきたという。

水源は、斜面の数箇所から染み出した地下水で、通年水が枯れることはない。周囲には用水路からの流れ出しで湿地が形成されており、多数のニホンアカガエルの卵塊が見られたが、ハクバサンショウウオの卵嚢は確認できなかった。

2) 確認個体

用水路の水中で成体オス 1 個体、用水路脇の陸上で成体メス 1 個体、幼体 3 個体を捕獲し、現地にて計測、写真撮影および個体の特徴を記録した後、捕獲した場所へ戻した。各個体のデータは以下の通りである。

確認日時：2017年3月29日（水）
13時30分頃
確認個体：成体オス1個体（写真1）
（体長約7cm、体重3.9g）
成体メス1個体
（体長約8cm、体重5.6g）
幼体雌雄不明3個体（写真2）
（体長約4cm）
卵嚢10対

捕獲した7個体は全て後肢の指が4本であり、背面は紫がかった暗褐色で、腹面には淡褐色で銀白色の斑点があることからハクバサンショウウオと同定した（富山県、2012；関・松井、2016）。オスはまだ精液が残っており（写真3）、メスは産卵後であった。

確認された卵嚢は10対で、用水路に点在していた。卵嚢の発生段階は、未卵割期が2対、2細胞期が1対、原腸胚期が2対、尾芽胚初期が1対、尾芽胚期が1対、未受精卵が1対であった。

考察

今回確認した産地と、富山県における本種の既知産地を図1に示した。本種はこれまで富山県南部の標高520～1500mの山地で確認されている（南部、2001）。他県においても、記録されている産地はほとんどが山地であるが、新潟県青海町の産地は標高約300mの権現山の一角にある私有地内とされる（新潟県、2001）。今回の産地は、富山県北東部の標高約300mの丘陵地の一角であり、青海町の状況と類似している。

ハクバサンショウウオは、本来標高の高い山地に生息していることが知られている

が、青海町や魚津市のように山地や丘陵部が海岸付近までに張り出しているような地形の場所では、平野部付近の標高が低い丘陵地域にも生息すると考えられる。

今回発見した卵嚢は10対と少なく、本産地での個体数は少ないと思われる。また、既知産地からは距離的に離れており、現在のところ周辺地域からも発見されていないため、ある程度独立した個体群である可能性が考えられる。

今後

個体や卵嚢のさらに詳細な形態計測や近辺の生態調査を行い、この個体群の規模を調べる必要がある。また、遺伝子に基づいた同定も併せて行う必要がある。

本種の産地は全国的にも少なく、各産地における生息数も多くない。今回新たに発見された産地も1地点のみであるが、魚津市や同様の地形を有する富山県東部の丘陵地から山地にかけては、さらなる産地が発見される可能性もあり、分布域解明にむけての調査が望まれる。

謝辞

本産地で卵嚢発見の情報と用水路に関する情報を提供していただいた2名の地元住民の方々に感謝申し上げる。また、調査に御協力いただいた東京都立隅田川高等学校の懸川雅市氏と茶臼山動物園の高田孝慈氏をはじめとする長野県ハクバサンショウウオ調査メンバーの方々に厚く御礼申し上げる。

引用文献

環境省. 2017. 環境省レッドリスト 2017.
別添付資料 5. 10.
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/105449.pdf> (平成 30 年 3 月 16 日閲覧)

Matsui, M. 1987. Isozyme variation in salamanders of the *nebulosus-lichenatus* complex of the genus *Hynobius* from eastern Honshu, Japan, with a description of a new species. Jpn. J. Herpetol. 12(2):50-64

Matsui, M., K. Nishikawa, Y. Misawa, M. Kakegawa, and T. Sugahara, 2002. Taxonomic relationships of an endangered salamander *Hynobius hidamontanus* Matsui, 1987 with *H. tenuis* Nambu, 1991 (Amphibia:Caudata). Cur. Herpetol. 21(1) : 25-34

南部久男 (編著). 2001. 富山市文化科学センター収蔵資料目録第 14 号 両生類・爬虫類. 富山市文化科学センター. 30.

新潟県. 2001. レッドデータブックにいがたー新潟県の保護上重要な野生生物ー. 新潟県環境生活部環境企画課. 69-79.

富山県. 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブックとやま 2012 -. 富山県生活環境文化部自然保護課. 79.

関慎太郎・松井正文. 2016. 野外観察のための日本産両生類図鑑. 緑書房. 111.

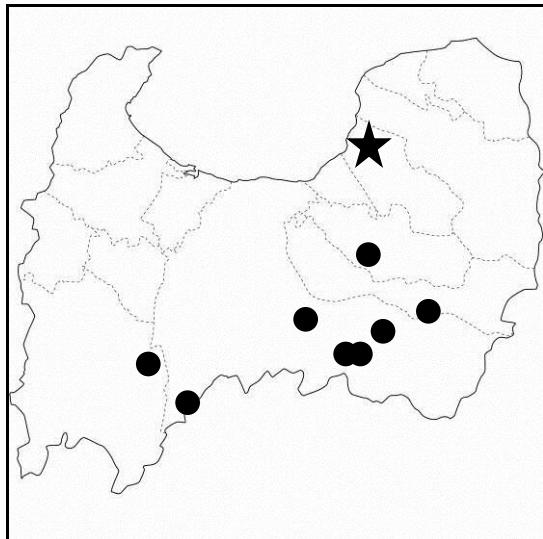


図 1 ハクバサンショウウオの新産地 (★).

●は既知産地 (南部, 2001 を改変)



写真 1 ハクバサンショウウオ オス個体



写真 2 幼体 3 個体



写真3 オス個体の精液



写真4 素掘りの用水路



写真5 確認された卵嚢

魚津水族博物館年報 第27号

ANNUAL REPORT OF AQUARIUM No.27

2018年8月 編集

編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <http://uozu-aquarium.jp>

E-mail suizoku@city.uozu.toyama.jp